正副議長就任記者会見（R１．５．１３）

（森内議長就任挨拶）

第８２代青森県議会議長を仰せつかりました森内之保留でございます。

県政発展のため一生懸命がんばって参りたいと思います。

何卒、皆様方にも、よろしくお願い申し上げます。

（質問）

○記者

まずは、抱負を詳しく教えてもらえますか。

○森内議長

やはり、議会を前に進めるためには、まずは、人口減少が県政の中で一番の喫緊の課題となっていますので、この克服が必要だと思います。東京一局集中ということで、やはり青森県もほかのところと同じで減少しておりますので、その対策を、議会がチェック機関になっておりますので、県の施策を推進するという形を見せながら、今後ともチェックしつつ問題の解決に取り組んでいきたいと思っております。以下、いろんな分野があります。総務、企画、農林水産、教育等々、そちらの方もやはり取り組んでいかなければならないと思っております。

○記者

座右の銘や趣味など大切にしていることをお聞かせいただければと思います。

○森内議長

私は前回副議長を仰せつかったときに、「鵬程万里」という四字熟語をちょっと引用させていただきました。鵬程の鵬は「月二つに鳥」、程は「程よいのほど」、万里は「万里の長城の万里」です。「永遠に輝き続ける様」という意味があるそうでございまして、一回この字を見てからですね、このようになれたらいいなという思いをしてから使わせていただいております。

○記者

政治家を志された理由などお聞かせください。

○森内議長

皆さんご存じのように、私の父は以前、県議会議員をしていましたし、それから、外ヶ浜町長もやっておりました。

私は、失職した私の父もそうでありますが、私の父の友人に石原慎太郎先生がおりまして、すごい力があってですね、浅虫の方にブリッジを作るのにもすごい協力をしてくれました。ああいう姿を見て、政治ってすごいなという思いもありましたので、そういった部分ですね、強く思ったというより、すごいなというところから入っていったのではないかなと、自分では思っています。

○記者

これまでの県議会議員としての一番強く残っていることがあればお願いします。

○森内議長

私は二期目の時に県土整備関係の委員長をさせていただいたのですが、その時に、平内町と風間浦村の易国間の方で岩の崩落がありました。そっちの方に向かわせていただいて、県の職員とやりとりをして易国間の方はだいぶ予算を付けていただきましたし、平内の方は１年ちょっと経ったと思うのですが、早急に対応してくれたと。それで、平内町の方とか風間浦村の方にすごく感謝されたという記憶がございます。私は元消防職員ですけど、やはりそういった危機的状況にすぐ対応していただいたことに、ほんとに県の方々に感謝したという、それが一番思い出にあります。

○記者

二点お伺いしたいと思います。まずは、選出されてのご挨拶のときに、「令和」という言葉を使って、新時代の議会ということでお話しされていました。新時代の議会としてのあるべき姿をどのように考えていますか。

○森内議長

時代は新しくなりましたけども、自分たちで作っていかなければならないというのが、この時代に入って私が考えているところです。時代の方でやってきてくれるのではなくて、自分の方が時代の方に向かっていかなければ、改革も進んでいかないのではないかなという思いがあります。

自民党の中にもやはり、役職に就任されたある方が、「闘う」、「議論を交わす」というお話をされていましたので、私もそのとおりだと思っています。

○ 記 者

あともう一点ですけど、今、ちょっとだけワードが出てきたのですけど、議会改革という部分で、何か取り組みたい部分とかございますでしょうか。

○ 森内議長

これは軽々にお話しする話ではないと思いますが、やはり、前議会改革検討委員会委員長としては、東奥日報社の紙面にも載っておりましたけども、「道半ば」ということでお話しをさせていただきました。議会改革はその時その時でやってすぐ終わるものではないと思っておりますので、やはり、来年だったと思いますが、国勢調査等もありますので、それを踏まえながら、いろんなところにやはり入っていかなければならない状況が生まれるのではないかなと自分では思っています。

○ 記 者

今お話のあった議会改革ですけど、例えば、具体的に項目を挙げるとすると何かありますか。

○ 森内議長

前回の熊谷議長の時もやりましたけど、議員定数、それから飛び地の問題とか、そういうものがあろうかと思います。ですから先ほども申し上げたとおり、軽々に言える話ではありませんので、やはり議員各位の御意見等々も聞きながら、進めていかなければならないと思います。

○ 記 者

議員定数の削減は必要というか。

○森内議長

ですから、先ほども申し上げました２０２０年度国勢調査を見据えてやらなければならないということです。

○記者

適正な議員数にということ。

○森内議長

現在でも私の知識の中では、定数が多分法定数より少ないという記憶があるのですが、またそこのところはあとで確認してから申し上げさせていただきたいと思っています。

○記者

少なくとも議論をしていきたいということですか。

○森内議長

はい、そうです。

○記者

ちょっと軟らかい話で。ご趣味や休日の過ごし方など、リラックスの方法があれば教えてください。

○森内議長

私は、元コックでしたので、コック見習いになるのですかね、料理は作るのが好きですね。あと、スポーツは野球、アイスホッケー、バレーボールをやっていましたので、

たまに教えに行ったりもしていましたので、そういった意味では、それがリラックスになっていたのかなという気がします。最近ちょっと行ってないですけど。

○記者

議長という役職ですからお忙しいとは思うのですけど、今後もそのようなことをやっていきますか。

○森内議長

まあ、時間があって、要請というか、ご要望がございましたら、私でよければ教えに行くという形になるかもしれません。なかなか要望してくれる人が最近いなくなりましたからね。さびしいな。

○記者

議長は、青森市内にお住まいで、ご家族は何人、奥様と二人暮らしということですか。

○森内議長

そうですね。二人暮らしです。

○記者

ご自身の性格をちょっと自己評価していただけますか。

○森内議長

一般に言う、短気なのでしょうね。短気だと思っています。ただ、そんな自分からけんかをふっかけたりはしないので。そのくらいですかね。我慢強くはないでしょうね。

○ 記 者

今の性格のお話で、自分の長所はどういうところだと思いますか。

○ 森内議長

長所ですか。自分で長所ってわからないのではないですか。自分で長所と思っても他人が違うと言ったら長所じゃないのかなと。

○ 記 者

よく言われることは。

○ 森内議長

マメだなって言われます。

○ 記 者

どういうところが。

○ 森内議長

わからないです。

○ 記 者

筆まめとか。

○ 森内議長

筆まめではないですね。なんなのでしょうね。そういうことは私がお付き合いしている人に聞いた方が。

とにかく、楽しくやりたいというタイプなので。何でもやるときは楽しくないと、物事進まないと思うので、そこは自分で長所ではないですけど、どちらかというと楽しくやりたいと。

○記者

そういう方針が県議会に生かされるとしたら、どういう形に生かしていきたいですか。

○森内議長

わかりません。これからの議長職、初めてでございますので。副議長はやらせていただいたことがありましたけども。その時の状況状況に応じてそういうことを考えていかなければならないのかなとは思いますけども、今どうのこうのという場面ではないと思います。

以上です。

（櫛引副議長就任挨拶）

この度、議員各位のご推挙をいただき、第８０代副議長の職をいただきました。本当にありがたく感謝に堪えません。

昨今、青森県は経済や雇用情勢について改善の兆しはみえていますが、様々な課題を克服するためにも今後努力をしてまいる所存でございます。

幸いに、議員経験豊富な森内議長さんがいっしょでありますので、ともにこの青森県のためにがんばって参りたいと思っております。

皆様方にもどうぞご支援、ご指導をいただきますように心からお願いを申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

（質問）

○記者

議長を支えていくというお話しでしたけれども、具体的にどのように支えていきたい、こういう自分のどういうところを生かして支えていきたいということ、また、議会を巡る問題、ご趣味、座右の銘などお聞かせください。

○櫛引副議長

待ってください。ご質問は一つずついきましょうか。そんなに一気に言われても。

どういう風に支えていきたいっていうか、副議長というのも初めての経験でありますので、具体的にはどういったことというのは言える時点ではないのですが、私は私の立場で開かれた議会というものを目指していくた

めに、女性の視点で議長さんに少しはお手伝いできるのかなと思っています。

自分が考える議会の問題ですが、先ほども言ったように議会がもっと県民の皆さん方に常にわかりやすい状態であるというのはやっぱり大事だと思いますし、私も地元においても、皆さん方のいろんな声を聞くことには、十分努力をしているところなのですけども、そういった面も含めて議会に反映していければいいなと思っています。

趣味というのは、植物観賞、特に山野草が好きなので、山に咲く可憐な小さい花などを見るひとときが好きです。

○記者

議員を志したきっかけを教えていただけますか。

○櫛引副議長

それは、亡くなった櫛引留吉の影響が大きくあったと自分の中では思っています。私は農家出身で嫁いできましたので、その後嫁いでから、政治の道に入っている家庭の中で、いろんな形で見させていただいて、そしてその影響がやっぱり最終的には大きかったのかなと思っています。

○記者

そういった皆さんに接する姿を見てっていうことですか。

○櫛引副議長

常に地元の皆さんやいろんな人たちと話をしたり、そういういろんな面でその政治の決断をする場面とかを聞かせていただいたり、青森県の状況みたいなものも聞かせてもらう機会もあったので、そのようなことがやっぱり自分の中には強く印象に残って、当初議員になるときにもいろいろ助言していただいた経緯があるので、それがきっかけになったと思っています。

○ 記 者

女性として初めての副議長選出ということで、女性という視点に立っての改めて意気込みがあればちょっとお願いしたいと思います。

○ 櫛引副議長

そうですね。私が初めて副議長に就任することによって、今県内も各市町村議会選挙があって、若い女性の方々も当地域でも当選してまいりましたし、そういった中で、これからいっしょに声を聞く場面も多くなるとも思っていますし、いろんな細かい、男性が意外と目が届かないといったことに自分は入り込むことができるとも思っています。

今までやってきた障害者の問題や引きこもりの問題、あるいはこれからの老後、介護などを心配している高齢者の方の声というのは直接やっぱり男性よりも女性の方に話をしやすいのではないかと思っているので、これからも大事にしていきたいなと思っています。

○ 記 者

女性として初めての副議長ということで、まずは率直

なご感想というのはいかがでしょうか。

○櫛引副議長

まだなりたてなので、実感がちょっと湧かないのですけど、さきほど来、いろいろ議会運営委員会とかそういった場にも出させていただいたりして、不安な気持ちがあります。

○記者

櫛引さんが思う、青森の魅力だったり、青森をもっとこのようにしていきたいという思いはあるかお聞かせください。

○櫛引副議長

そうですね、いろんなところにいろんな地域観光資源があるのですけど、まだまだやっぱり知られていない部分というのが数多くあるという風に思っています。

自分の選挙区内でも、小泊地区とかそういうところに細かく足を運ばせてもらったときには、やっぱり中央の皆様方が求めているものがまだ青森県にはたくさんありますし、それをどういった形で今後アピールしていったり、そして求めている人たちをこちらに呼び込めるかというのが、先だっても皆さんと話し合ったりした経緯があるのですけど、大きい市だけでなく町村の観光資源に目を向けていったら、まだまだ青森県は多くの人たちがこれから先も来てみたいという思いはあると聞いているので、私たちもこれから一生懸命やっていきたいと思っています。

○記者

ご自身の性格をどのように分析されていますか。

○櫛引副議長

意外と打たれ強いっていいますか、辛抱強いっていいますか、忍耐力はあると思っています。

○記者

それを県議会にどう生かしていきたいと思っていますか。

○櫛引副議長

そうですね。年齢とともに、なんていうのかな、人を観察するのがだんだん好きになってきたので、人が持つ力を充分に発揮させていただいて、いっしょに取り込んでいけるというか、そんなことが自分には向きではないかなとちょっと思っています。議員の活発な議論を通して、いっしょに青森県のためにやっていけるように頑張っていきたいと思っています。

○記者

人を観察しながら、人の特徴っていうのを引き出しながらということですか。

○櫛引副議長

そうですね。

以上です。